

道路問題について質問をします

今日まで、道路計画に基づく高規格道路は 1 万 4000 km の内、約 9300 km が整備され、建設費に見合う整備効果が期待される高規格道路のほとんどはすでに整備されている状況です。

また日本の道路総延長距離は 121 万 251 km、世界 222 か国の内第 6 位を占め、道路過剰国と言っても過言ではありません。

高規格道路などの大型道路建設は、大気汚染・騒音・振動などの環境破壊、交通事故の多発、石油資源の浪費などの弊害をもたらし、全国各地で紛争や反対運動が起こされてきました。

また、モータリゼーション発展の一方で、公共交通が衰退し、高齢化社会の到来は、交通難民を生じる事態となっています。

自動車需要台数推移では、2014 年度乗用車は前年比較で 92.2%、四輪車 95.3%、バス 94.4%、全体では 92.7% と全体的に減少しています。少子高齢化時代を迎え、さらなる車の減少が予測されます。大型道路建設に莫大な予算が費やされる一方、生活道路は維持補修も不十分で、穴ぼこに自転車や車のタイヤがと

られて、市の管理責任が問われる問題も後を絶ちません。

福山市の道路行政は、今日の現状を踏まえ、大型道路の建設ではなく、既存の道路に右左折車線を増設する部分改良や拡幅、東西交通の橋の増設等、生活道路の整備に重点を置くべきではありませんか。

ご所見をお示しください。

また、渋滞対策は、公共交通機関の整備やTDM等の実施により、クルマ依存社会から脱却する必要があります。

福山市は、クルマの総交通量の削減を目指すとともに、交通弱者の移動権を保障する福祉施策と結合させた総合交通政策を策定し、安全・安心のまちづくりに比重を移すべきではありませんか。

ご所見をお示しください。

今日まで、福山道路、福山沼隈道路、西環状線の建設に関わり、住民の反対運動が続いています。

新聞では、福山西環状線の完成時期が10年先になると報道していますが、その要因に、用地買収が計画どおり進んでいないことが

あげられています。

福山道路建設予定地では、「立ち退きを要請されても、行くところがない。高齢者だけの家族で、新しい家を建てるのも、引っ越しするのも苦痛でしかない」

「家の周辺に田畑があり、家屋だけを移転したら、耕作ができなくなる」「これまでの住民間の軋轢で、何代にもわたって築かれた人と人とのつながりは断ち切られてしまった。その苦しみを受け止めようともしないで、とにかく道路建設ありきで押し通してくる。無念としか言いようがない」との声は絶えません。

住民や市民が協力して、道路建設を止めたいと立ち上げた「地権者トラストの会」の共有地 地権者には、必要な説明会の案内もせず、無視しています。

福山市が国や県の仲立ちをして。地権者の声を届けるとともに、大型道路の建設を取りやめることを求めるものです。

以上についてのご所見をお示してください。

答弁＜市長＞

次に、道路行政についてであります。

本市では、通勤・通学面で結びつきの強い圏域である福山都市圏において、国・県・関係自治体と共同で、２００２年（平成１４年）３月、「福山市都市圏交通円滑化総合計画」を策定いたしました。

この計画を改定しながら、各事業主体による道路の拡幅や整備に加え、交差点改良も実施しております。

クルマの総交通量の縮減につきましても、中心部循環路線まわろーずやレンタサイクルの導入などを行うとともに、ベスト運動を中心としたノーマイカー運動を積極的に取り組んでいるところであります。

交通弱者に対する施策につきましては、現行の「福井市生活バス交通利用促進計画」において、市民生活を支える移動手段の確保を基本方針として取り組んでいるところであり、高齢者社会の進展を踏まえ、今後策定する「地域公共交通網形成計画」において、充実させていく予定としております。

次に、生活道路などの整備につきましては、本市の重点事業とし

て、全ての人が安心・安全に暮らせるよう、歩道や通学路の整備、舗装補修などに取り組んでいるところであります。

また、福山道路等の幹線道路網については、本市が備後地域の中核都市として、持続的に発展するため、さらには、災害時等の緊急輸送路としても、不可欠な都市基盤であり、引き続き、地権者等の理解と協力を得る中で、早期完成に向け、国・県と一体となって、事業に取り組んで参ります。

以上